

The Specialists

東邦大学医学部内科学講座
神経内科学分野 臨床教授
東邦大学医療センター 大橋病院
脳神経内科 臨床教授
すぎもと ひでき
杉本 英樹



この片頭痛なんとかなりませんか？ 画期的な新薬をご紹介します。

片頭痛は若年層や壮年層におきる血管性頭痛の中で、症状が起きてしまうと1日中、頭痛が継続して勉強や仕事にさしつかえることもある悩ましい疾患であります。

慢性片頭痛の患者さんで頭痛頻度の多い方は、いつもベストのパフォーマンスが出せないで悩んでいます。ですから片頭痛は予防が大切な疾患です。

片頭痛を起こす誘因としては、天候・気圧の変化、寝すぎ・寝不足、飲酒、チョコレート・チーズ摂取、精神的ストレス、スマホ・PCの使いすぎ、女性ではホルモンバランス変化などが考えられます。

片頭痛は我が国で人口の約8%程度にみられる疾患です。2021年から上市されたカルシトニン遺伝子関連ペプチド（calcitonin gene-related peptide : CGRP）製剤により画期的に予防療法が変わりましたので今回、ご紹介いたします。

慢性片頭痛の方は、急性期に使用する既存のトリプタン系製剤などもあまり効かず悩んでいらっしゃる方も多いかと思えます。慢性片頭痛

の方で既存の2剤以上のお薬に対して有効性が認められない方に、今回のCGRP製剤を予防的に使用することで片頭痛発作頻度自体を減少させる効果的が期待されます。働き盛りの人におきやすい慢性片頭痛が予防でき日常生活の活動性低下を防げるとことができるというのが最も重要なポイントです。

具体的には慢性片頭痛で今までのお薬で予防できなかった方の約50%に効果があります。投薬による最大効果は3か月程度で得られ、半年程度で安定した効果が得られた場合には、既存のお薬を減量または中止できる可能性があります。是非、慢性片頭痛の方には一度、試してみる価値のある治療法であります。

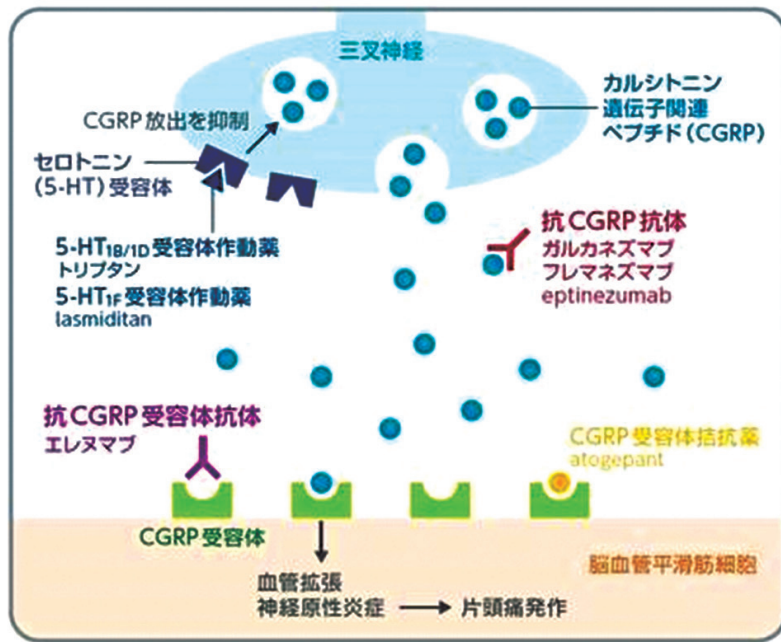
余談ではありますが、2022年11月より羽田空港国内線搭乗口の大型ビジョンで放映されています東邦大学監修：羽田空港フューチャービジョン 健康エアポート2022で私が動画にて片頭痛の新しい治療方法に関して紹介しておりますので羽田空港に行かれました際にはご覧いただければと存じます。

東邦大学監修の動画はこちらから

https://www.toho-u.ac.jp/movie-gallery/health_airport/ohashi2022-03.html

QRコードはこちら➡





出典：日経メディカル medical.nikkeibp.co.jp

CGRP製剤のメカニズムは三叉神経から放出されるCGRPに対応してブロックする抗CGRP抗体薬2種類（日本ではガルカネズマブとフレマネズマブ）と脳血管平滑筋細胞にあるCGRP受容体をブロックする抗CGRP受容体抗体（エレヌマブ）1種類の3製剤を日本では現在、使用できます。慢性片頭痛の患者さんで頭痛頻度の多い方には、大変有用な予防薬となります。今回の新薬は皮下注射製剤ではありますが、月に1回程度で予防効果が得られます。ぜひ、一般内科の先生方や一般の皆さんに認知してほしい新しい画期的な新薬であります。使用法としては、要件として主に神経内科専門医などがある施設で治療を行い、毎月1回皮下注射を行い

ます。3か月目までに効果がなければいったん、休薬します。効果がみられる方には約1年半程度にわたり注射を行うことが推奨されています。最近ではライフスタイルに合わせて、3か月に一度3倍量投与や自己皮下注射キットでの在宅治療もできるようになってきています。直接の3製剤の効果比較はできませんが、CGRPをブロックする機序が二つありますので、今後は使い分けも検討されてくるかと思います。

先生方の診療で慢性頭痛の患者さまでなかなか改善しないとお悩みの方がいらっしゃいましたら是非ともご紹介いただけましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

診療のご予約は・・・

病診連携部門あてに「診察・検査FAX予約申込書」をお送り下さい。

病診連携連絡先

病診連携部門

TEL: 03-3481-7385 FAX: 03-3468-6191



東邦大学 | 大橋病院
医療センター | Toho University Ohashi Medical Center

〒153-8515 東京都目黒区大橋2-22-36 電話 03-3468-1251

http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/
携帯用サイト http://www.ohashi_med.toho-u.ac.jp/m/

